



タマネギ

大網経済センター
営農指導担当者 鵜沢 悠人

農業 テクニカル ダイアリー

Agricultural-work technical diary



夏ネギ

やさいの里営農センター
営農指導員 椎名 康隆



写真① ベと病

主に4～5月にかけて曇雨天が続くと発症し、生育遅れにつながります。葉の症状としては、光沢がなくなり黄緑色に変色し、葉が曲がってしま

●ベと病(写真①)

タマネギの主要病害について(表②、③参照)

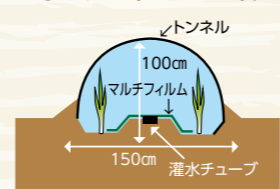
28年産を振り返って
定植後、冬場の気温が比較的高く、日照も確保できたため、生育は順調に推移しました。そのため、例年に比べ玉の肥大も進み、2L級の発生が極端に多くなりました。販売価格も5月中旬までは軟調傾向でしたが、5月下旬以降は主産地である佐賀県で病害が多発し、数量減となったため価格が堅調に推移しました。

次年度に向けて、特に春先の病害対策をしっかりと取り組み、適期で収穫が迎えられるようにしましょう。

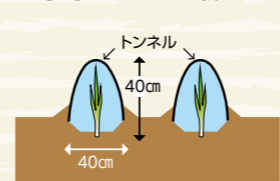
●28年産を振り返って

収穫期別作型のポイント
作型別の栽培暦は表①を参照にして

図① 大型2条トンネル栽培



図② 小型トンネル栽培



5月出荷には大型2条トンネルを利用します。小型トンネルに比べて日中の高温時間を長く保つことができ、抽苔の発生を少なくすることができます。被覆期間中の生育を確保するため、基肥には緩効性の肥料(エコーロング413またはSCネギ専用047。いずれも140日タイプ)を使用し、チッ素成分で17キロを目安に施用します。また、追肥は高度化成S842を3回に分けて、チッ素成分で12キロを目安に施用します。

●6月どり(図②)

6月中旬以降は単価が下がる傾向にあります。そのため、コストの安い小型トンネルで栽培します。施肥は2条トンネル同様に施用します。定植後、被覆までに極端な寒さにあたり欠株が発生することがあります。極端に乾燥している場合を除き、できるだけ早く被覆します。

●5月どり(図①)

5月出荷には大型2条トンネルを利用します。小型トンネルに比べて日中の高温時間を長く保つことができ、抽苔の発生を少なくすることができます。

その他の管理
冬場は窒素肥料が欠乏してしまつと抽苔の原因になるので注意してください。

灰色腐敗病
生育初期から春先にかけて、特に排水の悪い圃場での発生が多くみられます。軟腐病と似ていますが、比較的低温期から発生することや、軟腐病ほど悪臭を伴わないことなどで区別できます。病原菌は土壌中において、虫害や農作業などによる傷から侵入するので、収穫等の作業は注意して行ってください。また薬剤散布は株元にしっかりとかけると効果的です。

対策としては狭い場所に多く植え過ぎず、風通しを良くすることで発生を予防することができます。また、発生が見られた場所では連作障害を起す可能性がありますので注意しましょう。

います。圃場で発病株を発見した場合は、直ちに圃場の外に除去してください。

6月の分析経過について

合計7点	
大玉スイカ	2点
パレシヨ	1点
メロン(ちばエコ)	1点
カボチャ	1点
青はぐら瓜	1点
シシトウ	1点

※残留農薬分析において、基準値を上回る成分は検出されませんでした。

土壌診断点数 … 合計159点

表② タマネギに登録のある主な殺菌剤

農薬名	倍率	使用時期	使用回数	対象病害
ダコニール1000	1000倍	7日前まで	6回	べと病、白色疫病、灰色かび病
プロポーズ顆粒水和剤	1000倍	7日前まで	3回	べと病、白色疫病、灰色かび病
ジマンダイセン水和剤	400～500倍	3日前まで	5回	べと病、白色疫病、灰色腐敗病、黒斑病
ロブラール水和剤	1000倍	7日前まで	3回	灰色かび病、灰色腐敗病、黒斑病

※ダコニール1000とプロポーズ顆粒水和剤は、同じ成分が含まれていますので使用回数に注意してください。

表③ タマネギに登録のある主な除草剤

農薬名	10アール当たりの薬量	使用時期	対象
ゴーゴーサン乳剤	300～500ml	定植前または定植後。ただし収穫30日前まで	1年生雑草
ボクサー	400～500ml	定植後または中耕後。ただし収穫45日前まで	1年生雑草

※葉タマネギは登録農薬が異なりますので注意してください！

表① 作型別栽培暦

作型	品種	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
		上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
大型2条トンネル栽培	春扇	●		▲				V	V	V	■
小型トンネル栽培	春扇 SK3-108 羽緑一本太	●		▲				V	V	V	■
無被覆	夏扇4号 夏扇パワー			●				V	V	V	■

●: 播種 ▲: 定植 ○: トンネル被覆 V: 中耕、土寄せ、追肥 ■: 収穫

7月どり(露地栽培)
高温下で太りの良い品種を使って、抽苔の危険性がない時期に播種し、7月に収穫する作型です。一般的には「夏扇4号」などを使用します。播種時期は早ければ早いほど抽苔する危険が高まります。特に「夏扇4号」などの早生品種を使用する場合は、絶対に早摘きは避けてください。基肥はトンネル栽培の作型と同様に多めにします。3月上旬まで生育は緩慢ですが、3月中旬以降は急激に生育するので追肥量を多くします。